

令和3年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
中高一貫教育	・中高一貫教育を中心とした中高の連携をさらに深める。 ・連携生徒の学校生活の充実を図る。	①中高一貫4校事務局会議・各教科会・研修会の開催と、各部活動顧問間での連携を通して、中高の連携をいっそう深める。 ②連携生徒の授業、部活動、学校行事への参加の充実を図る。	事務局員の共通理解は昨年度に引き継ぎ100%となった。中高一貫教育の推進の新たな取組みをしていくために議論を重ねることができたことが大きい。しかし、中高一貫教育の全体像を把握している割合は91%となった。これは、事務局員が会議に出席せずに全体像を把握できなかったことが考えられる。今年度も15時30分まで事務局会議を行うことが多かったが、本校の担当教員が連携授業や7限授業のため参加できなかったことが多く全員出席ができなかったことがあった。今後会議の開催時間や開催した後の報告の徹底が必要である。事務局会議は昨年同様5回開催したが、回数的には連携3校との協議検討、振り返りも含めこの程度の開催が妥当であろう。 英語と数学の乗り入れ授業は、昨年度から2月まで行っている。高校教員が中学校に乗り入れながら中学校の教科担当者と必要な打ち合わせを行い、週1回の授業をしている。今年度から英語と数学の先取り授業をすることが決まり、7限補充や美方高校での特別授業等において先取り授業を実施している。この先取り授業を連携クラスの一つの魅力として今後も推進していく。 研究委員会は、今年度7月に両町教育長、両町小学校代表校長、高校教育課担当、嶺南教育事務所担当者等に出席をいただき、取組み・予算面等について理解をいただくことができた。3月の第2回は昨年同様開催せず資料配付のみとした。 部活動の交流は、コロナ禍であったが昨年よりも交流を多く持つことができた。バレー部や剣道部、卓球部などで休日の美方高校での合同練習だけでなく、中学校へ向うでの練習試合も行い、それぞれの部活動で連携を進めることができた。	来年度から高校1年生で連携クラスを設けることや中3で先取り学習を積極的に推進していくことなど新たな取組みが加わったこと1年であった。そういう点で取組みの改善がなされているといえる。しかし、事務局会議や本校全体への中高一貫教育の取組みの周知は弱まったように感じている。そのことがアンケート結果にも表れている。そこでスクールウェア上で中高一貫教育の取組や推進状況を事務局会議後に全体に周知するようしていく。 R4年度連携クラス生徒の本校への入学割合は14/45名(31%)であり、連携クラス入級者が、希望すれば一般クラスに戻ることができるようになって以来最低の入学割合となった。その原因として、もともと他校を希望していたが連携クラスに入級してきている生徒の割合が多かったことや高1で連携クラスを作ることを知り、少人数クラスより大きな人数の中で学習することを選んだ生徒がいたことがある。高1で連携クラスをつくり、先取り学習を英語と数学で推進していくことは今後の中高一貫教育を推進する上で大きな目玉である。だからこそ、R4年度連携入学生14名を少人数のよさを生かし、丁寧な指導で学力を向上させることにも力を入れることだが学校のリーダーとして育成していく。そのためにタブレット等を活用した「個別指導」や進路選択につなげる「SDGsを意識した探究学習」の強化を図る。また、学校行事や部活動の核となって活躍できるように指導していく。R4年度入学高1の成果が今後の連携クラス入学者の増加につながるものと信じている。
	・生徒が主体となる授業を工夫し、学習意欲を高め、学力向上を図る。 ・家庭学習の充実を図る。	①教科会を中心とした授業研究(ICT活用研究を含む)や生徒による授業評価を通して授業改善を図る。 ②各教科、各学年と連携し、家庭学習の質と量の改善を図る。	「授業におけるICTの活用について、教員自身及び生徒の使用状況について」の研究を「十分」または「おおむね」行った教員の割合は86%で、目標(80%)を上回った。公開授業週間(6月と11月)には生徒に効果的にタブレットを活用させる方法の研究をテーマの一つとして取り組んだ。また外部講師を招いたり、外部の中高一貫校に来ていただいたりして授業研究を行った。 授業内容を「ほとんど」または「おおむね」理解できているとした生徒は87%で昨年より4%上昇し、目標(80%)を達成した。全学年で「あまり理解できていない」とした生徒は44名(昨年より29名減少)、「ほとんど理解できていない」が5名(昨年と同数)であった。授業内容の理解度が低い生徒が昨年より減少したことは評価できる。ICT活用が進みつつあることが一つの要因ではないかと考える。	授業理解度で「あまり理解できない」という生徒がいないということは大変喜ばしいことである。その一方で、この数字は自分の学力を高めたという積極的な意志が弱いのではないかと懸念もある。なぜなら学問はこれよりよいことがなく追究すればどこまででも追究できるものだからである。理解できているのだけれどより理解の難易度が高い方へ目指しているから。学力上位層の生徒への指導を充実させることが急務である昨年記載したが、学力の高い生徒に高い進路目標を持ち切磋琢磨し合える環境を与えることが大切である。授業での取組みに加え、自習室スタディ50を有効に活用したりスタディサプリを利用したりしながら学校全体として学力向上対策をしていく。 部活動への積極的な取組みはコロナ禍だったものの春季総体等主要大会が開催できた。また学校祭も準備期間が短くなる中、3年生を中心に積極的に活動する様子が見られ充実した姿が体育祭でもうかがえた。部活動や学校行事、探究学習などを通して地域のリーダーを育成するという中高一貫教育の理念を実現すべく生徒の主体的な活動や進路実現を支援し、地域を活性化できる人材を育てていきたい。
教育課程 学習指導	・生徒が主体となる授業を工夫し、学習意欲を高め、学力向上を図る。 ・家庭学習の充実を図る。	①教科会を中心とした授業研究(ICT活用研究を含む)や生徒による授業評価を通して授業改善を図る。 ②各教科、各学年と連携し、家庭学習の質と量の改善を図る。	「授業におけるICTの活用について、教員自身及び生徒の使用状況について」の研究を「十分」または「おおむね」行った教員の割合は86%で、目標(80%)を上回った。公開授業週間(6月と11月)には生徒に効果的にタブレットを活用させる方法の研究をテーマの一つとして取り組んだ。また外部講師を招いたり、外部の中高一貫校に来ていただいたりして授業研究を行った。 授業内容を「ほとんど」または「おおむね」理解できているとした生徒は87%で昨年より4%上昇し、目標(80%)を達成した。全学年で「あまり理解できていない」とした生徒は44名(昨年より29名減少)、「ほとんど理解できていない」が5名(昨年と同数)であった。授業内容の理解度が低い生徒が昨年より減少したことは評価できる。ICT活用が進みつつあることが一つの要因ではないかと考える。	生徒一人ひとりにタブレットが貸与され、生徒の授業への取組みがより主体的になってきているように感じる。新学習指導要領で言及されている「対話的で深い学び」をさせる方法や新しい大学入試に関する研究をさらに進め、効果的に学習内容、学習方法が提示できるような、各教科、進路指導部等との連携を強化していきたい。外部講師を招聘した授業研究だけでなく、教員相互の授業参観を積極的に行って授業改善を行い、また、教科横断型の授業も模索して教育効果を上げていこうとした。 授業の理解度が低い生徒および習熟度の高い生徒の個別指導を継続することが重要である。来年度入学より観点別評価の本格的な実施も始まる。より一層ICTを活用し生徒一人ひとりの能力に応じた課題提示を行うという、生徒自身に振り返りをさせ、それを教員が把握したりして、個別に指導していく必要がある。
	・容儀に関する指導を中心として、基本的な生活習慣の確立を図る。 注:「容儀」礼儀作法にかんじた態度やその姿のこと。身だしなみや言葉遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。	①定期的な容儀指導を行うとともに、時間管理の習慣作りと校則遵守および挨拶遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。 ②学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。	基本的な生活習慣のうち、規則正しい生活を送れているかという点について、「送っている」または「おおむね送っている」とする割合が、教職員から生徒を見た場合は95%(昨年比4%増)、生徒が自分を評価した場合は88%(昨年比4%増)、保護者から生徒を見た場合は78%(昨年比5%増)となった(目標はいずれも80%)。保護者から見た割合が、昨年同様、目標を達成していない。これは不規則な家庭生活などを反映しての数字であるように思われる。その原因の一つにスマホの影響があるように感じられる。今後も、スマホの正しい使い方などを粘り強く指導していく必要がある。 容儀面に関しては、生徒自身が校則やマナーを「守っている」または「おおむね守っている」とする割合は、98%(昨年比15%増)となり大幅に増加した。教職員については95%(昨年比2%減)であるが、目標の80%を大きく上回る結果となった。これは指導部の服装指導の取組と、その取組に全教職員が共通理解を示し、真摯に指導した結果だと見える。保護者は98%(昨年比1%増)と、昨年同様高い数値を示した。昨年までの生徒と保護者とのギャップが解消された結果となった。	課題の提出率に関してはこのまま高い数値を維持できるように家庭学習の方法を日々指導していく。観点別評価とも関連して、課題の種類を「知識・技能」を問うもの、「思考力・判断力・表現力」を問うものを意識してバランスも考えて与えるようにしていくと、単に答えを写して終わるような生徒は減り、考えて学習するようになり、学習時間も伸びるのではないかと考える。また「知識・技能」を問う課題の場合は、小テストを取り入れるなどして確認する必要がある。課題の量に関しては教室に設置してあるホワイトボードに教科担任が課題を記入することで教員間のバランスをとるようにする。また、「MIKATA DIARY」を活用して目標や計画を立て、時間の自己管理ができるように指導を継続していく。
生徒指導	・容儀に関する指導を中心として、基本的な生活習慣の確立を図る。 注:「容儀」礼儀作法にかんじた態度やその姿のこと。身だしなみや言葉遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。	①定期的な容儀指導を行うとともに、時間管理の習慣作りと校則遵守および挨拶遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。 ②学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。	基本的な生活習慣のうち、規則正しい生活を送れているかという点について、「送っている」または「おおむね送っている」とする割合が、教職員から生徒を見た場合は95%(昨年比4%増)、生徒が自分を評価した場合は88%(昨年比4%増)、保護者から生徒を見た場合は78%(昨年比5%増)となった(目標はいずれも80%)。保護者から見た割合が、昨年同様、目標を達成していない。これは不規則な家庭生活などを反映しての数字であるように思われる。その原因の一つにスマホの影響があるように感じられる。今後も、スマホの正しい使い方などを粘り強く指導していく必要がある。 容儀面に関しては、生徒自身が校則やマナーを「守っている」または「おおむね守っている」とする割合は、98%(昨年比15%増)となり大幅に増加した。教職員については95%(昨年比2%減)であるが、目標の80%を大きく上回る結果となった。これは指導部の服装指導の取組と、その取組に全教職員が共通理解を示し、真摯に指導した結果だと見える。保護者は98%(昨年比1%増)と、昨年同様高い数値を示した。昨年までの生徒と保護者とのギャップが解消された結果となった。	時間を守り規則正しい生活を送るという点に関して、保護者が子どもを評価したときの数値が、目標に達していない。その実態を把握し、起床・就寝・家庭学習・携帯スマホ使用の時間および方に留意して自主的な時間管理という観点で改善を呼びかけたい。また、教職員から生徒を評価した数値が昨年比4%増となった。これは、生徒手帳「MIKATA DIARY」の有効活用や、朝のSTとコロナ対応における毎朝の検温の効果があるのではないかと考えられる。さらに、担任や学年会、部活動顧問との連携を密に継続できるように努力していきたい。また、遅刻撲滅に向けて、規則正しい生活を送る呼びかけや指導をしていきたい。遅刻の回数が多い特定の生徒に対しては、生活習慣の改善を図る指導をより細かく行いたい。
	・学校行事や部活動を推進する。	①快適度いじめアンケートを生徒理解に役立てる。 ②「面接週間」を生徒理解に役立てる。	部活動加入率は1・2年生が90%を上回り、全体では87%(含む兼部)となった。3年生の回答が78%(5月は88%)であり、引退した生徒が「加入していない」で回答した可能性がある。5月の部活動登録時点で学校全体では90%を上回っている。生徒の部活動に対する姿勢は、「積極的」、または「おおむね積極的に」活動している割合が85%(昨年比2%増)、保護者の部活動に対する満足度は「満足」、または「おおむね満足」とする割合が92%(昨年比2%増)となり、部活動に関しては、目標の80%を達成できている。生徒の満足度を向上させることが今後の課題である。 学校行事に関しては、「満足している」、または「おおむね満足している」生徒が、87%(昨年比2%減)と、目標の90%をやや下回った。この項目は、例年、高い割合で推移しており、学校祭や生徒会行事など生徒を中心とした行事への満足度は高いといえるが、低下させないような工夫が必要となってくる。 「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて今年度は91%であった。目標の80%を上回っており、アンケートの有意性が認められ、また生徒の内面を知る手立てとして役立っていることがわかる。今後も生徒の実態がより明らかになるよう工夫をしていきたいと思う。	部活動加入率を正しく示すために、引退した3年生の記入の仕方についてアンケートの前に説明が再度必要である。部活動や学校行事に対する取組の姿勢やその満足度は、生徒、保護者共に、おおむね良好な結果が出ている。部活動に対する満足度は大会等での成績だけでなく、日常の活動から得られる達成感・充実感によることも大きい。生徒の人格形成に資するという目的を常に念頭におき、質の高い部活動が日常的に行われることを今後も目標としたい。また、今後各部の活動方針や活動内容に対して、保護者の理解が常に得られるよう留意したい。 学校行事に関する生徒の満足度は高い数字を維持しているが、やや減少傾向にある。コロナ対策による行事の削減も影響しているように考えられる。目標設定の90%の見直しも必要である。出来る範囲の中で、充実した学校行事が展開できるように、さらに生徒会活動を中心に盛り上げていきたい。
教育相談	・生徒の悩みを受け止め、迅速で適切な対応を行う。	①快適度いじめアンケートを生徒理解に役立てる。 ②「面接週間」を生徒理解に役立てる。	「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて今年度は91%であった。目標の80%を上回っており、アンケートの有意性が認められ、また生徒の内面を知る手立てとして役立っていることがわかる。今後も生徒の実態がより明らかになるよう工夫をしていきたいと思う。	生徒の内面や状況の把握をより確実にするために質問項目を工夫し定期的に実施したい。 面接の有効性は担任にも広く認められている。次年度も効果的な面接が実施できるよう面接週間を計画することが重要であると考えられる。

令和3年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
進路指導	<p>・キャリア教育を推進し、明確な進路目標を持たせ、個々の目標に応じた進路実現に努めさせる。</p> <p>・自ら課題を発見し主体的・協働的に探究する力の育成を図る。</p>	<p>①職業講話、進路説明会等の進路行事を通じて、職業観の育成と進路目標の明確化を図り、課外等の全体指導及び個別指導を充実させる。</p>	<p>担任のうち、「ホームの80%以上の生徒に学年に応じた進路目標を持たせることができた」と答えた割合は83%（目標85%）であった。一方で、生徒のうち「明確な進路目標を持つことができた」または「明確ではないが進路目標を持つことができた」と答えた割合は全体の82%（目標85%）であった（1年65%、2年81%、3年96%）。保護者のうち、子どもが「明確な進路目標を持っている」または「明確ではないが進路目標を持っている」と答えた割合は全体の80%（目標85%）であった。いずれも目標を下回った。1、2年生でまだ迷っている生徒が多く、時間をかけて進路目標をさがそうとしている様子が見られる。</p> <p>土曜学習会や夏期課外及び冬期課外について、その内容や回数が「適切」または「おおむね適切」だったと回答した教職員の割合は86%で、目標（85%）を上回った。また、学習会や課外に「積極的に」または「おおむね積極的に」参加したと答えた生徒の割合は97%、保護者の割合も93%で、どちらも目標（90%）を上回った。課題として2年生普通科の課外の持ち方について、12月から進路別の講座を組むことで教員生徒ともに学習内容が明確になり、積極性も増したと考えられる。</p> <p>推薦入試や2次試験等への対策として、個別指導を「きめ細かく十分に」、または「おおむね十分に」行ったとする教職員は100%（目標90%）であった。また、進路実現についての本校の取り組みについて、「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行われていると考える3年生保護者の割合は93%（目標90%）であった。</p> <p>進路実現に対して「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ3年生の割合は85%であった（目標90%）。目標をやや下回った。昨年に続き、コロナ禍で、先行きが不透明なため早期に進路先を決めねばとの全国的な動向も影響したものと思われる。</p>	<p>1年生の3人に1人以上の生徒が進路目標を持っていない実情に対して、教員全体で問題意識を持つ必要がある。生徒と関わる際に意識して進路の話題を出したり悩みを聞いたりすることに努める。</p> <p>新入試制度に対しても授業で対策を充実させたり、模擬試験の解説を丁寧にを行うことで対応していく。主体的な学びが求められることに対し、探究活動や進路行事、大学主催の公開講座、検定の取得等、これまでも増して積極的に参加するよう働きかけていく。</p> <p>進路相談の際、今年度あまりできなかった、副担任や学年主任等による面談を検討していく。</p> <p>2年普通科の課外について、生徒の実態を踏まえ今年度同様に進路別での実施を検討する。</p> <p>今年度も成果があった、3年生への個別指導を来年度も丁寧に実施していく。来年度以降も、志望理由書の重要性がますます大きくなるので、教員対象の研修会もさらに充実させる。</p>
		<p>②総合的な探究[学習]の時間「論考」における探究活動の指導を充実させる。</p>	<p>論考の探究活動に生徒を「積極的に」、または「おおむね積極的に」取り組ませることができた。1・2年生担任の割合は91%（目標90%）であった。論考の探究活動に「積極的に」、または「おおむね積極的に」取り組んだ1・2年生の割合は93%（目標90%）であった。1・2年生とも、自らの興味関心に基づく課題探究活動に主体的に協力して取り組む様子が見られた。中学生や役場職員、大学教授など外部講師を何度も招いたり、校内外への発表会も複数回実施したことも探究の質を高める機会となった。課題としては、探究や発表のまとめの時間確保のために教科の授業時間を多く使用したことがあげられる。来年度以降、より見直しを持った探究学習計画を立てる必要がある。</p>	<p>来年度以降も、探究の時間がほぼ週2時間設定される。それぞれの生徒がより主体的な探究学習が展開できるよう、個に寄り添った支援がより求められる。教員間で連携が一層求められるため、担任、副担任間での連携、学年間での協力体制の充実に努めてきたい。</p> <p>探究のレベル向上に向けて、地域の専門機関などより外部とのつながりを強めていきたい。</p>
<p>・生徒の健康管理、健康教育を推進する。</p> <p>・環境美化を推進し、安全管理を徹底する。</p>	<p>①保健部LTや保健委員会活動などを充実させ、健康管理意識を高める。</p> <p>②整美・保健委員会の活動や清掃活動を充実させ、勤労意欲と安全意識の向上に努める。</p>	<p>生徒の「薬物乱用防止教室」や「保健だより」（新型コロナ感染症対策・熱中症対策・月経）等を通して心身の健康について関心が「高まった」または「おおむね高まった」とする回答が93%と昨年の90%を上回り、目標（90%）を達成することができた。</p> <p>健康管理については、健康に気をつけた生活が「常にできている」、または「おおむねできている」とする回答が、生徒94%と昨年度の95%とほぼ同じであり、目標値（90%）を達成した。保護者は89%と昨年度の94%を下回り、目標値（90%）にわずかに届かなかった。</p> <p>生徒の検診の結果を見ると、視力低下、虫歯増加、歯周病等の悪化の傾向がわずかに見られ、学校医からは「生活習慣の乱れが原因」の指摘もあった。</p>	<p>「薬物乱用防止教室」や「保健だより」を通して心身の健康に関心を持つ生徒の割合は、目標を達成している。今後も ST・LTの時間や「総合的な探究の時間」を利用して、心身の健康について考える時間を確保していく。また、内容については、学年会・指導部・体育科と連携を密にして、さらに指導を充実させる。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス対策で、「保健部LT」「救急法講習会」「心・LJT」などの行事が実施できなかったが、過去2年実施できなかった「薬物乱用防止教室」を優先して実施した。来年度もコロナの状況を判断し、行事を企画・実施していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の予防について、生徒・教職員で危機意識を共有して実践している。感染症に対する情報を日々更新して、生徒・教職員全体でできる限りの対策を行っている。</p> <p>基本的な生活習慣の確立にも焦点を当て、生徒の健康管理への意識向上に努める。</p>	
		<p>③生徒・保護者や地域への情報発信を支援する。</p>	<p>生徒の毎日の清掃活動に「積極的に」取り組んだ、または「おおむね積極的に」取り組んだ」とする回答は99%と、昨年の97%を上回り、目標（90%）を達成することができた。教職員が積極的に清掃活動に取り組むように「常に指導した」または「おおむね指導できた」とする回答は100%で、昨年度97%を上回り、目標（90%）を達成した。生徒の環境美化に対する意識や活動は高い水準を維持している。</p> <p>安全管理については、安全に気をつけた生活が「常にできている」または「おおむねできている」とする回答は、生徒98%（昨年度99%）、保護者97%（昨年度99%）で、いずれも目標（90%）を達成した。教職員については「危険等を予測し徹底して点検している」または「危険等を意識し点検している」が100%（昨年度100%）となり、今年度の目標（90%）を達成することができた。</p>	<p>清掃への取組みについては高い結果が出た。中清掃や大掃除での取組みはよい。毎日の10分の清掃時間を、時間いっぱい取り組むという点ではまだ十分とは言えない。生徒の整美委員会・保健委員会の活動を充実させ、清掃方法の指導や生徒が主体的に清掃活動に取り組むような工夫につなげる。</p> <p>今年度も教員対象の安全点検（月1回）、生徒対象の安全点検（年1回）を実施した。その情報をもとに、他部署と連携して危険箇所・不良箇所の発見・改善につなげた。次年度も安全点検を続けることにより、安全で快適な生活と教員・生徒の安全意識の向上に努めていく。</p>
<p>図書整備</p> <p>情報管理</p>	<p>・生徒により多くの書物を読ませ、広い視野と豊かな心を育む。</p> <p>・情報収集や情報提供を円滑に行い、情報発信の支援をする。</p>	<p>①書物に接する機会を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。</p>	<p>本年度に図書室を5回以上利用した生徒は46%（目標70%）と昨年に比べてやや減少し、目標に達しなかった。1月15日現在の図書室利用件数は206件、生徒貸出冊数は1,422冊と昨年に比べてやや減少したが、一人当たりの貸出冊数は3.4冊と昨年度と同じであった。図書室利用数が減少したのは、今まで図書室で行っていた調べ学習などがタブレットを利用して教室でできる環境になったためと思われる。</p> <p>図書室に読みたい本が「充実している」「おおむね充実している」と回答した生徒の割合は80%（目標70%）と昨年度より5ポイント増加し、目標を達成した。生徒の希望や話題の本等を取り入れたためと思われる。</p> <p>授業・LT・ST等を利用した読書指導が、「十分できた」または「必要に応じてできた」と考えている教職員の割合は71%（目標80%）と昨年度より10ポイント減少した。</p> <p>学校祭や図書まつりで行われたイベント企画については多くの参加があり、参加した生徒からは好評であった。今後、図書室利用件数や貸出冊数を増やすために、図書室利用の多角化を図ることが課題である。</p>	<p>入学当初の図書オリエンテーションにおいて、図書室利用や読書活動について十分に理解させ、授業での読書指導やLT、図書情報委員会活動（図書だより発行など）を通して、生徒が読書活動をする機会を増やしていきたい。</p> <p>授業・ST・LTにおいて、教職員が生徒に「おすすめの本」を紹介するなどして、生徒に読書への興味関心を持たせる機会を増やしたい。</p> <p>生徒の希望や話題の本などを取り入れるなど図書室の蔵書を充実させたり、図書まつりなどのイベント企画、学科や部活動と連携しての文化的な企画なども取り入れたりして図書室の利用促進につなげたい。</p>
		<p>②ICT環境の整備・利用促進を図る。</p>	<p>授業やホーム経営、校務分掌の業務を行うためのICT環境に「満足している」または「おおむね満足している」の割合は90%（目標80%）と目標を達成した。校内のICT環境が整備され、教職員が積極的な利用を心がけていることがわかった。</p> <p>ICT環境の整備については、特別教室の暗幕の設置ができた。</p>	<p>タブレットの活用環境や活用方法について、使用しながら、問題点があれば、その都度改善していきたい。</p> <p>特別教室のICT整備については、まだ一部不十分であるので、引き続き要望していきたい。</p>
		<p>③生徒・保護者や地域への情報発信を支援する。</p>	<p>校内の情報資源を活用して美方高校の魅力を発信することが「十分にできた」または「必要に応じてできた」とする教職員の割合は81%（目標80%）で目標を達成し、教職員全体で情報発信することができた。</p> <p>ホームページも新しく、見やすいものに変更し、生徒や保護者だけでなく、中学生などに魅力あるものを発信できた。今後は動画などの投稿をしていることが課題である。</p>	<p>本校の魅力を発信するために必要な視聴覚機材の管理、データの収集、情報資源を整理することに努め、なお一層情報発信しやすい環境を整えていきたい。</p> <p>ホームページについては、動画の投稿を増やし、魅力ある情報を発信したい。そのために、各部、学年会、部活動など、それぞれにおいて、迅速に情報発信できるシステムを作りたい。</p>

令和3年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
開かれた学校づくり		<p>・PTA活動を充実発展させ、教職員と保護者との連携を深め、生徒の健全な育成に努める。</p>	<p>今年度は新型コロナウイルス対策のために、昨年同様、学校行事への参加をある程度制限せざるを得なかった。したがって本項目の判断基準についても、A「3回以上は参加している」、B「2回は参加している」、C「1回は参加している」にそれぞれ変更した。目標指数も、A+B+Cの合計が80%以上とした。結果は、97%と、目標を大きく上回った。A+Bだけをとりても、80%を越えている。1学期末の保護者懇談会への参加も97%であり、満足すべき数値である。今後は開催方法や周知手段、開催時期などを検討して改善すべき部分は改善していきたい。</p> <p>行事への満足度についても、「満足できる」または「おおむね満足できる」が95%と目標(85%)を上回った。</p>	<p>今後も参加者が増えるように、日時や内容について再検討する。また、案内方法についても、紙面や緊急連絡メールでの連絡の他に、ホームページ掲載やPTA理事からの呼びかけなどを行う。</p>
		<p>②広報誌「湖声」を年4回発行し、保護者の学校への関心を高める。</p>	<p>PTA広報誌「湖声」については、A「読んでいる」・B「時々読んでいる」を合わせて86%と、昨年とほぼ同様の数値で目標(90%)を下回った。3学年とも86～7%程度で、平均している。どの学年の保護者にも積極的に読んでもらえるような工夫(題材やレイアウト)を考えたい。</p> <p>また、「湖声」によってPTA活動や学校の様子がA「分かる」・B「おおむね分かる」を合わせると95%と目標(90%)を上回った。読んでいる保護者にとっては「湖声」がPTA活動や学校の様子を知ること役に立っていることが分かる。</p>	<p>「湖声」を紙面上だけでなく、ホームページ上に掲載するなどして、読んでもらう機会を広げる。また、生徒の活動やPTA活動の様子が保護者に伝わるように、引き続き紙面の充実にも努め、学校への関心を高められるようにする。</p>
家庭学科	<p>・専門教科に関する知識・技術と探究心を培い、社会の中で生かす実践的態度の育成に努める。</p>	<p>①専門教科の学習に関心を持ち、各種検定やコンクールなどに意欲的に取り組ませる。</p>	<p>専門教科に対して、「意欲的に取り組むことができた」・「おおむね意欲的に取り組むことができた」をあわせて96%と目標(90%)を上回ることができた。大半の生徒が、専門教科に対して意欲的に取り組んでいることが分かった。</p>	<p>「意欲的に取り組めた」の回答が増えるよう、今後も各科で教材研究や指導方法を工夫していく。また、割合としては少ないものの、「あまり意欲的に取り組むことができなかった」「意欲的に取り組むことができなかった」と回答した生徒もいることから、生徒への個別対応にも力を入れていきたい。</p>
	<p>・学科の特色ある活動を展開し、地域との連携を深める。</p>	<p>②校外活動を通して、積極的に地域と関わることでできる生徒を育てる。</p>	<p>(今年度は新型コロナウイルスの影響により、地域でのイベント等が実施できなかったため、アンケートは実施しなかった。)</p>	
業務改善	<p>・ICT活用による業務の効率化を図る。</p>	<p>ICT等を有効に活用し、業務の効率化を図る。</p>	<p>「できている」「おおむねできている」をあわせて71.4%(昨年度100%)と、昨年度よりかなり数値が低くなった。学校全体として業務の負担が減っていると感じる教員が少ないことをあらわしている。ICTで業務を減らすことはもちろん、一人一人の業務の負担感をどう減らしていくかを校務分掌の再編も含め検討していく必要がある。</p>	<p>生徒へのタブレット活用が本格化したり、教員のWEBでの会議の頻度が高くなったりしている。連絡が簡単になったり移動時間がなくなったりと有効活用できている面もあるが、教員全体の意識としてICT活用＝業務改善の構図にはなっていない。ICTの活用によって3人がやっている業務が1人で済むようになるなどの実質的な活用を考えて改善を図る。</p>
	<p>・行事の精選・内容の見直しを図る。</p>	<p>行事、およびその内容を精選し、業務の短縮を図る。</p>	<p>「できている」「おおむねできている」をあわせて43%(昨年度97%)であった。これは今年度、行事の精選や見直しがなされず業務に負担を感じている教員が半数以上いることを示している。最近では地域の方からの依頼を受けて生徒が活動をすることも多く、その際に教員も協力しなければならないことも多い。また各校務分掌での個人の負担感もあると考えられる。行事を精選するという方法や校務分掌の仕事内容を減らすための方法などを見直す時期にきている。</p>	<p>この数値は、業務改善を積極的に推進したいという教員の意識の表れであると考えたい。年間行事作成の段階で「削減できる行事はあるか」を検討していく。また、個人の負担感をアンケート等を利用して把握するとともに校務分掌の仕事の負担軽減を図る。</p>
	<p>・部活動の負担軽減を図る。</p>	<p>外部との連携を進め、部活動指導の負担軽減を図る。</p>	<p>「できている」「おおむねできている」をあわせて52%(昨年度97%)であった。部活動指導員制度では、卓球、バレー、ソフトの3つの部活動で活用した。また外部指導者がボート部と硬式野球部に応援に来てくれている。技術指導を中心に行っていただくことで、部員の技術力向上につながっているが、顧問は外部指導者に日頃の練習内容や生徒の様子等を伝える必要もあるため週休日の指導を完全に外部指導者に任せることができない現状がある。</p>	<p>部活動指導員や外部指導者には引き続き指導をお願いしていく。部活動指導員の活用をより多くの部活動で活用できるように県に要望していく。現在1つの部活動に2名以上配置する複数顧問制であるが、部活動への負担を感じる教員の割合が増えていることから、1人で指導する負担を部活動の中で軽減できるように調整する。</p>